

森づくり サポーターニュース

びわこ地球市民の森

Vol.81

令和4年6月30日号

びわこ地球市民の森(森づくりセンター) 〒524-0102 滋賀県守山市水保町2727
TEL:077-585-6333 FAX:077-585-6312
biwako@moridukuri.info https://www.moridukuri.info

より豊かな生態系の森を目指して(1)

昨夏の大雨で、出会いのゾーンと里の森ゾーンの間に造られた国道477号バイパスが堰になり、公園外に水が溢れ出ました。バイパスのボックスカルバートの幅が狭かったという直接原因がありましたが、流れに手を加える方法で、里の森・ふれあいゾーン間の市道下に1本増管し3本のコルゲート管を1m程低く敷設して、現在その上流・下流を浚渫し水路を深くしています。

今年度から、本公園は新しい指定管理者になりました。募集要項の中に、開園20周年記念で私たちが県に設置を希望した親水空間の「池、滝、流れ(里の森ゾーン)」がありました。応募では、その他に出会いのゾーンに2つ目の井戸を掘り、この間に既存と合わせて3つのポンプで水を流すことになりました。水量を増やそうということです。

この公園の水路は川ではありません。水害防止用の水路で、上流からの水田の不要水や湧き水、雨水を近隣地域に溢れ出ないようにして、下流に流す目的で新たに造られたものです。本公園は長さ3.2kmで高低差は4mです。この工事により、浚渫をしない下流のつどい・ふるさとゾーンでの滞留状況がどうなるかの注意も必要です。

里の森ゾーンの水路は、全体に今より水底が1m程下がります。これまでに比べて水量が多く、多少水流が速くなると思います。朝1番に、ゴミ拾いをしながらその場所を観察していますが、変化をなかなか想像できません。

出会いのゾーンでは水の変化後の生態系が、里の森・ふれあいゾーンは、浚渫も合わせた水系の変化後の生態系が注目されます。ふれあいゾーンではほぼ浚渫が終わりました。里の森ゾーンでは、浚渫前の水辺でヨシの生長を待ってられないよと言うように、オオヨシキリが鳴き始めました。ヨシの他にカヤツリグサやミゾソバ、タコノアシ等の植物も目立ち始めました。浚渫が始まるとそれらは一旦取り払われます。オオヨシキリにとっては災難です。浚渫後どのぐらいの期間で水辺の自然が復元するかわかりませんが、日々観察をしながら、自然の復元力に期待したいと思います。

里の森ゾーン・ふれあいゾーン間の市道下にできた3本のコルゲート管と水路周辺



里の森ゾーン第3橋から出会いのゾーン方面(南)を望む(水路は滞留しながらゆっくり流れている。)



森の新しい 管理体制がスタート

指定管理者 「みらいもりやま21ビオトープ協議会」
代表者 株式会社みらいもりやま21
代表取締役社長 鷗飼重樹



私たちの使命は、「県民協働の21世紀の森づくり」であり、日本一のMother Lake琵琶湖に繋がり、豊かな生態系を有する「びわこ地球市民の森」で、水を生かし、森を育み、地球市民を育てることです。その実現に向けて、これからの20年、自然も、人も、地域も、健康で幸せになるアウトドアライフを支えるフィールドづくりを目指します。

そのためには、滋賀県と協働し、広がりを持った官民連携を促すことが、鍵になると考えております。そこで、地元守山市に拠点を置き、10年以上のまちづくりや活性化の実績を有する弊社が中心となり、公益社団法人守山市シルバー人材センター、中西建設株式会社、株式会社北川建設、株式会社サンセイ、株式会社CYCLE Hab&Portの県内企業6社により、「みらいもりやま21ビオトープ協議会」を組織し、令和4年4月1日より、指定管理者および今回から新たに始まったP-PFI(公募設置管理制度)の事業主体者となりました。これから20年間に亘る運営管理となります。

私たちは、民間主導による事業の導入を有効に活用するため、

- ①かつて、野洲川の南流であり、琵琶湖との生態系の繋がりを有するという本公園の特徴を生かします。
- ②豊かな森・ビオトープの育成、賑わいづくり、イベント等の自主事業に真摯に取り組みつつ、さまざまな可能性を探りながら、継続的、安定的事業の遂行に努めてまいります。

「びわこ地球市民の森」が「訪れるほどに、魅力が増していく日本一の公園」として、成長していく姿を目指し、あらゆる努力をしていく所存です。サポーターの皆様には変わらぬご愛顧をお願い申し上げます。



びわこ地球市民の森 総括管理責任者
株式会社みらいもりやま21 ゼネラルマネージャー 石上僚

皆様、初めまして。4月1日より、総括管理責任者となりました、石上と申します。國松元知事のお話を伺ったり、サポーター

ニュースの第1号から拝見させていただいたりしたところ、ここは、サポーターの皆様をはじめとする、非常にたくさんの方に支えられてきた森なのだ、と実感し、身が引き締まる思いです。これまで同様、サポーターの皆様のご意見を大切に、一緒に森づくりを進めていきたい、引き続きご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。今後、より一層多くの方に関わっていただけ工夫もしていきたいと考えております。また、新たに始まったP-PFIの仕組みも存分に生かし、地域の皆様のご意見をしっかり聞きながら、カフェやバーベキュー設備などの整備を進め、サポーターにとっても、来園者にとってもより良い「びわこ地球市民の森」となるよう努力してまいります。これから20年間、どうぞ宜しくお願い致します。

第1回森づくりサポーター活動 開催!

今年度最初の「森づくりサポーター活動」が、令和4年5月14日(土)、新緑が映える雨上がりの天候のもと開催されました。例年この時期は「森のつどい」のイベントと併せて実施していますが、今年度は「森のつどい」が秋に変更となったため、今回は単独の活動となりました。

明け方まで雨が降っていたため、当初行う予定でありました間伐作業を取りやめ、森をウォーキングしながら、樹木などの自然観察を行いました。当日は、森づくりサポーター88名、ガールスカウト23名、計111名の多くの皆さんが参加し、石上所長のあいさつと作業内容の説明のあと、森づくりセンターを出発して出会いのゾーンまでの森の中を観察しながら歩きました。途中、出会いの円形広場や守山市で一番高い山である「モリモリ山」(標高99m)など各ポイントで森づくりセンターのスタッフから、森の様子や樹木の特徴などについて説明を受けながら、新緑の森の中をウォーキングしました。



開会式の様子



出会いのゾーンへウォーキング



出会いの円形広場で観察



いざ、モリモリ山へ!

一方、ガールスカウトの皆さんは、江見先生の指導のもと、自然観察ノートを持ち、芝生広場でのクローバーやオオバコ、センダンの淡紫の花やピンクのかわいいハマヒルガオ、ガマズミの白い花などを観察し、新緑の森の自然を楽しみました。



クローバーとオオバコの観察



ハマヒルガオの観察



樹木観察

今回は、森での作業は出来ませんでした。森の中の散策や生きものの観察などを通して成長した森の様子が肌で感じられました。参加していただきました皆さん、本当にご苦労様でした。次回のサポーター活動は、令和4年7月23日(土)に予定しています。多くの皆様のご参加をお待ちしています。

「森づくりサポーター」 新しい活動団体の紹介



毎月活動のグループが、3団体増え22団体となりました。

令和4年4月より、レイカディア大学草津校40期園芸の「ENGA40」と42期園芸の「さんもくかい」、
「42B」の皆さんが、森づくり活動に参加されています。

公園の管理体制が変わり、いろいろとお願いすることとなりますが、無理なく、楽しみながら活動しましょう。



ENGA40



さんもくかい



42B(よんにーびー)

いろいろな形で、サポーターの皆さんも一般来園者も、森や生き物と関わってもらえるような公園にしていきます。ご協力とご提案もよろしくお願いいたします。

おしらせ

～第2回森づくりサポーター活動のご案内～

暑い時期ですが、皆さんのお越しをお待ちしています。

開催期日 令和4年 7月23日(土)
開催場所 びわこ地球市民の森(里の森ゾーン)
活動内容 植樹地の育樹活動と自然学習など

森のデータ

森の面積	42.5ha
森の延長	3.2km
森の幅	100～200m
植樹面積	80,808㎡
植樹期間	H13～H25
植樹活動参加者数	44,994人
植樹本数	160,967本
森への利用者数(R3)	241,551人
森づくり活動参加者数(R3)	3,418人
うち育樹活動参加者数(R3)	2,549人



森づくりセンターが新しい体制となって最初のサポーターニュースとなりました。これからも、年4回の発行を目標に、森の様子やサポーターの皆さんの活動、そしてその時々ホットなニュースなど森に関する様々な話題を提供していきたいと考えています。皆様からのご意見やご提案をお待ちしていますので、よろしくお願いいたします。